

県、事業実施を働きかけ



岩手県学童保育連絡協議会
〒020-0122
盛岡市みたけ3-38-20
岩手県青少年会館内
Tel・Fax 019-681-0651

県連協と岩手県子ども子育て支援課との懇談会は12月19日に岩手県庁で行われ、千田広幸会長ら役員6人が出席しました。県連協は懇談会に先立ち11月30日に岩手県に要望書を提出しており、懇談会ではこの要望書を基に同課と意見交換を行いました。

岩手県との懇談会

懇談会の冒頭、県連協の門田弘之事務局長は「市町村で制度の理解が進んでいない。県として市町村に働きかけを行ってほしい」と訴えました。

県の担当者は放課後児童健全育成事業が市町村事業であることを前置きした上で、「市町村が自ら定めた条例にしたがって事業実施できるよう、県としても働きかけを行っていく」と答えました。

▽岩手県への要望書

1・学童保育の水準を確保することについて
(1)「支援の単位」が実質的に適正なものとなる

研修認定は市町村の裁量

久慈市で学習会開く

県連協は12月22日に久慈市内で学習会を開催し、保護者、指導員34人が参加しました。

学習会では門田弘之事務局長が「指導員の仕事の大切さ」、阿部勝副会長が「連絡協議会の必要

性」をテーマに講義。指導員・保護者・各クラブ等がつながり合い学ぶことや、共に支え合い運動を進めていくことの大切さを再確認しました。

よう各市町村に働きかけてください。
(2) 県内の学童保育が

等しく拡充できるように、各市町村の事業計画の策定においては、正確なニーズ把握のもと、質及び量が充足するような計画となるよう、各市町村に働きかけてください。
(3) 放課後児童支援員認定資格の受講要件の緩和をしないよう、国に要

請してください。
2. 放課後児童支援員の人材確保及び人材育成について
(1) 学童保育の担い手である放課後児童支援員の人材育成及び人材確保のため、県主催の「放課後児童支援員等資質向上事業」を実施してください。

3年になるが市町村での制度理解が進んでおらず、大規模学童が解消していないなどの現状がある。学童保育は市町村事業ではあるが県としても質と量を確保するよう市町村に働きかけをしていただきたい。また、人材の確保、育成は県の役割。研修の充実や処遇改善を促進してほしい。研修について県連の研修会を現任研修として認定してほしい。市町村に要望すると、それは県に要望してほしいと回答される。

岩手県 要望書の1の

(1)、「(2)。(2)の(2)」等資質向上事業」の促進について、各市町村に働きかけてください。
(3) 放課後児童支援員等処遇改善事業や放課後児童支援員キャリアアップ処遇改善事業の促進について、各市町村に働きかけてください。
(4) 全国学童保育連絡協議会や当協議会が実施している指導員学校・研究会等の研修会を放課後児童支援員の現任研修として認定してください。

▼主なやり取り

県連 新制度が始まって

県連 私たちは学童保育の水準をよりよいものにするため活動しているが、



学童保育の充実に向け岩手県の取り組みを求めた参加者

岩手県は市町村間での格差があまりに大きい。その事実を県はどう認識しているか。

岩手県 大規模等の実態があることは把握しているが、中身としてそれによいのかということに県として踏み込めない。市町村自らが定めた条例に従って事業実施できるよ

う働きかけをしていく。**県連** 現在、県の放課後児童支援員の資質向上研修は放課後子どもプラン

の研修会の中で行われている。(全児童対策、放課後子ども教室と) 合同ではなく、放課後児童支援員に特化した形で研修を行ってほしい。

岩手県 子どもプランの研修会が3回あるうち1回を放課後児童支援員の研修と合同で実施している。放課後健全育成事業の資質向上の研修にのっとり実施している。**県連** ある市町村ではこの研修がキャリアアップ

事業の対象研修となっている。(他事業と合同で) 年1回100人の枠で希望者全員が受講可能なのかという問題がある。**岩手県** 他に市町村が行う研修もあるので、それらを活用してほしい。**県連** 行政研修が県の研修しかない市町村もある。その点について市町村に噛み砕いた説明があるべきではないか。

岩手県 キャリアアップ事業の対象研修の位置づけについて、現行あるもので足りないというのであれば県もそうだが、市町村で研修会を行うよう働きかけていく。**県連** 研修の認定について、どの研修を対象とするかは市町村で決めてよいということだが、現場で働きかけし、市町村が認めれば(県連の研修も)認定していただけるという理解でよいか。

岩手県 そういうことで。また、市町村では今年度から現計画の見直し作業に着手します。行政への要望事項は各市町村で開催される「子ども子育て会議」のなかで発言していくことが重要です。地域の課題や要望事項を整理し、現場の声をしっかりと次期計画に反映させていきたいと思います。

現場の声、次期計画に反映を

また、市町村では今年度から現計画の見直し作業に着手します。行政への要望事項は各市町村で開催される「子ども子育て会議」のなかで発言していくことが重要です。地域の課題や要望事項を整理し、現場の声をしっかりと次期計画に反映させていきたいと思います。

基準引き下げに危機感

木田全国連協会長が講演

県連学習会

県連協は12月23日に花巻市交流会館で学習会を開き、各地域連協から

35人が参加しました。学習会では全国学童保育連絡協議会の木田保男会長

が「学童保育の現在とこれから」と題して講演。学童保育の現状や国の動向を知り、今後の活動の方向性を考える場となりました。

木田会長は「新制度で学童保育の設置数と入所児童数は急増したが、大規模学童は解消するどころか増えている。」と現状を説明。さらに「学童はあっても生活の場にふさわしくない施設もあり、

質、量ともに拡充していく必要がある」と課題意識を述べました。前日に政府予算案が閣議決定されたことから、来年度の学童保育関連予算についても説明。処遇改善事業について「補助単価が若干増額となったが、全国の市町村のおよそ2割しか事業実施できていない。このままでは予算が確保されなくなる恐れがある」との懸念を示し地域での働きかけを求めました。

また、地方分権改革の中で地方団体が放課後児童支援員の資格要件や配置基準などの緩和を提案



講演する木田保男全国連協会長

新会員紹介

していることに触れ、「基準引き下げの動きを押しとどめ、現場が運営指針を進められるようにしていく」と述べ、各方面への働きかけに注力していく考えを示しました。

- ▽一般会員 学童保育クラブ/けやき子供会/スコーレ学童クラブ(盛岡市)
- ▽団体会員 奥州市立水沢放課後児童クラブ第1・第2/奥州市立みなみ放課後児童クラブ第1・第2・第3/奥州市立ときわ放課後児童クラブ第1・第2・第3

- 奥州市立佐倉河放課後児童クラブ第1・第2/奥州市立真城放課後児童クラブ第1・第2/奥州市立姉妹放課後児童クラブ第1・第2/奥州市立羽田放課後児童クラブ/奥州市立黒石放課後児童クラブ/奥州市立江刺愛宕放課後児童クラブ第1・第2/奥州市立胆沢笹森放課後児童クラブ/奥州市立南都田放課後児童クラブ/衣川放課後児童クラブ/衣里放課後児童クラブ/小山キッズクラブ/南都田キッズクラブ/若柳キッズクラブ/胆沢愛宕キッズクラブ(奥州市)